

# ソーシャルワーカー

## ● ソーシャルワーカーとは

ソーシャルワーカーは、人々が地域において自分らしい生活ができるように支援する。一般には、社会福祉士国家資格を取得し、例えば、地域社会、福祉現場、専門機関等において社会福祉実践を行うソーシャルワーカーとなる（\*社会福祉士国家資格を持たないソーシャルワーカーもいる）。「社会福祉士及び介護福祉士法」（1989年）によれば、「①社会福祉士を名乗る（名称独占）、②専門的知識と技術をもつ、③日常生活を営むのに支障がある者と向きあう、④相談、助言、指導、連絡・調整をする」社会福祉の専門職者である。

ソーシャルワーカーが実践・活動する現場は、児童・高齢・障がい等の領域だけでなく、司法や教育等の新しい領域へ拡大しつつある。つまり、個人の生活に向きあうソーシャルワーカーが実践する領域や場面とは、人々の生活があるところに存在するのである。今日、社会基礎構造の変化や社会システムの複雑化とともに、個人や家族の生活や生き方も個別化・多様化の傾向にあり、社会の関係性や環境から様々な解決困難な問題が生まれている。

ソーシャルワーカーの業務は、社会福祉のフォーマルな領域（社会福祉の施設・機関、社会福祉協議会等）に収まらない。社会福祉の対象や範囲が拡大化するにつれて、ソーシャルワーカーは限定された枠組みを超えて、社会福祉関連・隣接領域（看護・心理・精神、教育、家族、産業等）やインフォーマルな領域（SHG、ボランティア、NPO等）において、多職種と連携を図りながら、固有の専門性を発揮することが求められている<sup>1)</sup>。

## ● ソーシャルワーカーの価値と価値観

ソーシャルワーカーの主たる業務は相談援助を行うことである。そのためには専門的な知識と技術は必要条件であるが、その根底には人間観と倫理観、ソーシャルワーカーの価値がなくてはならない（図1）。

ソーシャルワーカーが専門職として身につけるべき価値とは何か。すべて人間は平等であり、人間の尊厳を有し、かけがえのない存在（実存）として尊重されるという価値である。ソーシャルワーカーは、専門職として共有するこの価値を基盤に実践をしている。

一方で、ソーシャルワーカーも一人の人間として個人の価値観ももつ。価値観とは、その人の育ちや家庭環境、人生における経験等により形成されるのであり、すべての人々は独自に固有の価値観を所有している。そこでソーシャルワーカーはジレンマに向きあうことも多い。ソーシャルワーカーの価値観とクライアントの価値観がぶつかりあうこともある。ソーシャルワーカーはその内面において「一人の専門職としての価値」と「一人の人間としての価値観」の狭間で葛藤し、苦悩する。対人援助専門職は、自己覚知やスーパーバイズを通して、まず自己を理解し、自らの価値観を基準にクライアントを審判することなく、互いの価値観を尊重しながら、目の前の一人の個人に向きあい、理解していく。

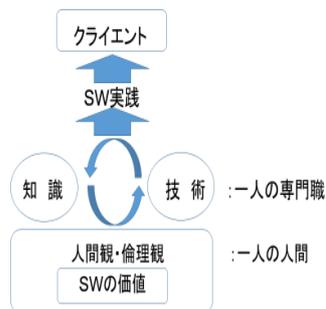


図1 ソーシャルワークの価値と専門性

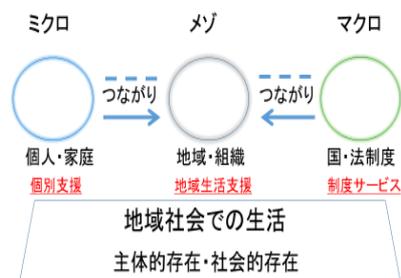


図2 ミクロ・メゾ・マクロのつながり

### ● ソーシャルワーカーの視点と援助

第一に、目の前の問題を問題として捉えない。つまり、現時点で捉えられる問題のみに焦点化するのではなく、クライアントの現在の生活の背景やこれまでの人生の歩み（＝生活の全体）を見通していく。ソーシャルワーカーには、ストレングス視点をもってクライアントとともに歩み、「なぜこの問題が今起きているのか」を捉えていく姿勢が求められる。

第二に、生活上のニーズをアセスメントする。ソーシャルワーカーは、生活基盤、健康状態、家族内関係、日常生活活動、対人関係、社会参加等、個人の生活に向きあう。客観的情報ばかりでなく、主観的情報（心的・社会的な要素）にも着目し、ニーズをくみ取る。

第三に、ソーシャルワーカーの支援は現実的かつ具体的でなければならない<sup>2)</sup>。ソーシャルワーカーは「①クライアントとともに支援方法をプランニングする。②クライアントと多様な社会資源をつないでいく。③マクロ的視点とミクロ的視点から捉える。④クライアントを地域で生活する社会的存在と捉える。⑤クライアントの主体性を尊重し、社会参加できるように支える」。その際、個別援助の技法をもってクライアントの感情表出を促し、信頼関係を築きながら、生活支援を現実的かつ具体的に実践していく（図2）。

第四に、専門職によるチーム連携を調整していく。例えば、子どもに関するケースであれば、児童領域の専門職の援助だけでは対応できない。実際に問題を抱えるのは子ども本人ではあるが、その子どもを取り巻く環境（家庭環境・育ち）や多様な社会関係が存在し、それらは多様な領域とのつながりもある。ソーシャルワーカーは、多職種チーム連携によって各専門職の専門性が発揮されるように、ジェネラルな視点をもって調整をしていく。

#### 参考・引用文献

- 1) 梓川 一：『ソーシャルワークと活動分野—ソーシャルワーカーとケアマネジャーのための相談支援方法』。久美出版，2008
- 2) 岡村重夫：『社会福祉原論』。全国社会福祉協議会，1983

(梓川 一)